

水稲・大豆の生育と管理

回覧



令和7年9月号
宇佐市農政課 / 大分県北部振興局集落営農・水田畑地化第一班

HPからも見れます！
(毎月1日更新)

●水稲の管理（病害虫防除）

◆斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシは出穂後に籾を吸汁し、**等級低下**や**不稔米**を発生させます。近年、発生量が増加しており、適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収**となる可能性があります。

病害虫対策チームの巡回調査において、1圃場当たりの斑点米カメムシ個体数が多くなっており、斑点米カメムシ類の注意報が発表されました（8月4日付け）。

薬剤による防除は、

- ・**斑点米カメムシ…穂揃い期とその7～10日後の2回**
- ・**イネカメムシ…出穂直後とその7～10日後の2回**行ってください。

畦畔・農道・休耕地の雑草で越冬するため、雑草繁茂はカメムシの増殖を促します。**畦畔の雑草刈取りを行ってください！**



カメムシ被害粒↑



←イネカメムシ

◆秋ウンカ（トビイロウンカ）の防除

トビイロウンカは、本田移植後に海外から飛来し、9～10月ごろの第3世代になると急激に増殖します。1株100匹以上になると坪枯れを引き起こし、甚大な被害をもたらすため、発生に十分注意する必要があります。昨年は苗箱施薬等の効果により、被害はほとんど見られませんでした。今年においては、**県内で平年（8月3日）よりも早い6月15日にトビイロウンカの初飛来が確認され**、その後も予察灯での調査から飛来数が懸念されています。防除適期は第三世代幼虫が**7月上旬**の予測です（7月16日時点）。

田の中央部の発生状況を十分注意し、**防除を行う際は薬剤が株元まで届くように散布してください！**



株元に生育するウンカ類↑

◆穂いもちの防除

葉に病斑が見られたら防除しましょう。穂いもちの防除は「**穂ばらみ期 + 穂揃い期**（どちらも液剤又は粉剤）」の**2回散布**が効果的です。

大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ（左下のQRコード）から「葉いもち」の発生予測を確認できます。

【ウンカ類、カメムシ類、いもち病の防除薬剤】

薬剤名	適用病害虫名	使用時期	使用回数	10aあたり 使用量	希釈倍率
ブラシンバリダ フロアブル	いもち病、紋枯病、 ごま葉枯病	収穫14日前 まで	2回以内	60～150 L	1,000 倍
スタークル液剤10	ウンカ類、 カメムシ類	収穫7日前 まで	3回以内	60～150 L	1,000 倍
トレボン乳剤	ウンカ類、 カメムシ類	収穫14日前 まで	3回以内	60～150 L	ウンカ類：1,000～ 2,000倍 カメムシ類：2,000倍

※薬剤ごとに使用時期、使用量をラベル等で確認し使用しましょう。



←葉いもちの病斑



☆トビイロウンカ等防除技術データとイネ葉いもち発生予測モデル BLASTAM
大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ
<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>（左QRコード参照）で確認できます。

●大豆の管理

◆紫斑病とカメムシ類防除

カメムシと紫斑病は同時防除しましょう！

1回目：幼莢期（多くの莢が1cm程度、9月上～中旬）

2回目：1回目の10日から2週間後

紫斑病は種子伝染します。

発生した場合は、自家採種せず種子更新を行いましょう。

【紫斑病とカメムシの防除】 ※1回目と2回目の薬剤をかえましょう



↑大豆の幼莢期

	薬剤名	希釈倍率	10aあたり 散布液量	対象病害虫	使用時期
1 回 目	ニマイバー水和剤	1,000 ～ 2,000 倍	100 ～ 300 L	紫斑病	収穫 14日前まで
	キラップフロアブル	2,000 倍	100 ～ 300 L	カメムシ類	収穫 7日前まで
2 回 目	アミスター20フロアブル	2,000 ～ 3,000 倍	100 ～ 300 L	紫斑病	
	スタークル液剤10	1,000 倍	100 ～ 300 L	カメムシ類	

◆ハスモンヨトウの防除

白変葉が防除の目印！

ハスモンヨトウは大きくなると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫期の薬剤防除が重要です。日中は下葉の陰や土中に潜み、夜活動します。薬剤防除は夕方、葉の両面にかかるよう散布してください！

今年も高温・少雨傾向のため、発生に注意が必要です。圃場をよく観察し、農業情報メール等からも発生情報をしっかりキャッチしてください。

ハスモンヨトウの食害によるダイズの白変葉↓



若齢幼虫のついた白変葉は圃場から取り除きましょう

【ハスモンヨトウの防除薬剤】 ※1回目と2回目の薬剤をかえましょう

薬剤の特徴	薬剤名	希釈倍率	10aあたり散布量 (使用量)	使用時期
脱皮阻害剤	ロムダン粉剤DL	－	4 kg	収穫14日前まで
長期残効剤	ブロフレアSC	2,000～4,000 倍	100 ～ 300 L	収穫前日まで
	グレーシア乳剤	2,000～3,000 倍		収穫14日前まで

農業情報メール配信の登録募集！

～米・麦・大豆の栽培管理情報をいち早くキャッチしよう！～

★ 登録方法 ★

配信受付メールアドレス syuraku-hokubu@pref.oita.jp

件名または本文に〇〇市 氏名を記入して、配信受付メールアドレスにメールを送信してください。
差出人のメールアドレスに農業情報を配信します。

